

令和4年度 認知症施策推進大綱におけるNCNPの取り組み

認知機能の低下のない人
プレクリニカル期

認知機能の低下のある人(MCI含む)

認知症の人

① 普及啓発・本人発信支援

- ・ 認知症市民公開講座の開催(年2回) ・ 世界アルツハイマーデーイベントの開催 ・ 認知症サポーター養成講座の開催
- ・ 小平市認知症フォーラムでの講演

② 予防

- ・ こだいら健康ポイント事業(184名参加) ・ もの忘れチェック会(年10回)

③ 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

- ・ 東京都認知症疾患医療センター、NCNP認知症センターとしての活動
もの忘れ外来(初診患者数:631名)、認知症オンライン診療、相談対応・情報提供
- ・ 認知症初期集中支援チーム(月1回)、小平市もの忘れ相談会への医師派遣(年5回)
- ・ 認知症カフェ(オレンジカフェ)(月1回)
- ・ 認知症介護者のためのオンラインプログラムiSupport-J研究

④ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

- ・ 小平市在宅医療介護連携推進協議会に参加 ・ もの忘れ外来を受診した若年性認知症者と家族の相談対応・情報提供

⑤ 研究開発・産業促進・国際展開

- ・ こだいら健康ポイント事業(ブレインヘルスプロジェクト小平)
- ・ 認知症プレクリニカル研究
- ・ J-TRCオンサイト研究
- ・ プレクリニカル期を対象とする治験
- ・ もの忘れチェック会(ブレインヘルスプロジェクト小平)
- ・ Parkinson病及びAlzheimer病ディメンジョンを対象とした包括的神経画像研究(PADNI)
- ・ 認知症・神経変性疾患の基礎・臨床融合研究、NCNPバイオバンク登録促進
- ・ NCNP認知リハプログラムの開発
- ・ MCIを対象とする治験
- ・ BPSDに対するロボット研究
- ・ 軽度AD認知症を対象とする治験

健康ポイント事業

「こだいら健康ポイント」に参加する小平市民を対象に、運動量と認知機能との関連を検討。令和2年度203名、令和3年度154名、令和4年度184名が参加。→ 3年間の調査の結果、健康ポイント参加前後で認知機能の改善が示された。

もの忘れチェック会

認知症の早期発見・介入のための検診。健常者とMCIの範疇にある人には研究について情報提供する。認知症の範疇にある人にはもの忘れ外来の受診をすすめる。年10回開催。

WHOによって開発された認知症介護者のためのオンライン自己学習プログラムiSupportの日本版を作成し、その有用性を検証するためのRCTを実施。iSupport日本版を通して、介護者が認知症についての知識や介護福祉サービス、介護者自身のケアの必要性、介護の方法、BPSDへの対応について学習することで、精神的ストレスの軽減、自己効力感やメンタルヘルスの向上を目指す。
→ RCTの中間解析の結果、90.1%と高い継続率を認めた。令和5年4月にRCT目標症例数208名を達成。

レジストリ研究(水澤・塚本)

プレクリニカル・MCI期の縦断観察研究を行う。プリオン病のレジストリを構築し、自然歴を調査。

J-TRCオンサイト研究(岩坪・塚本・高野)

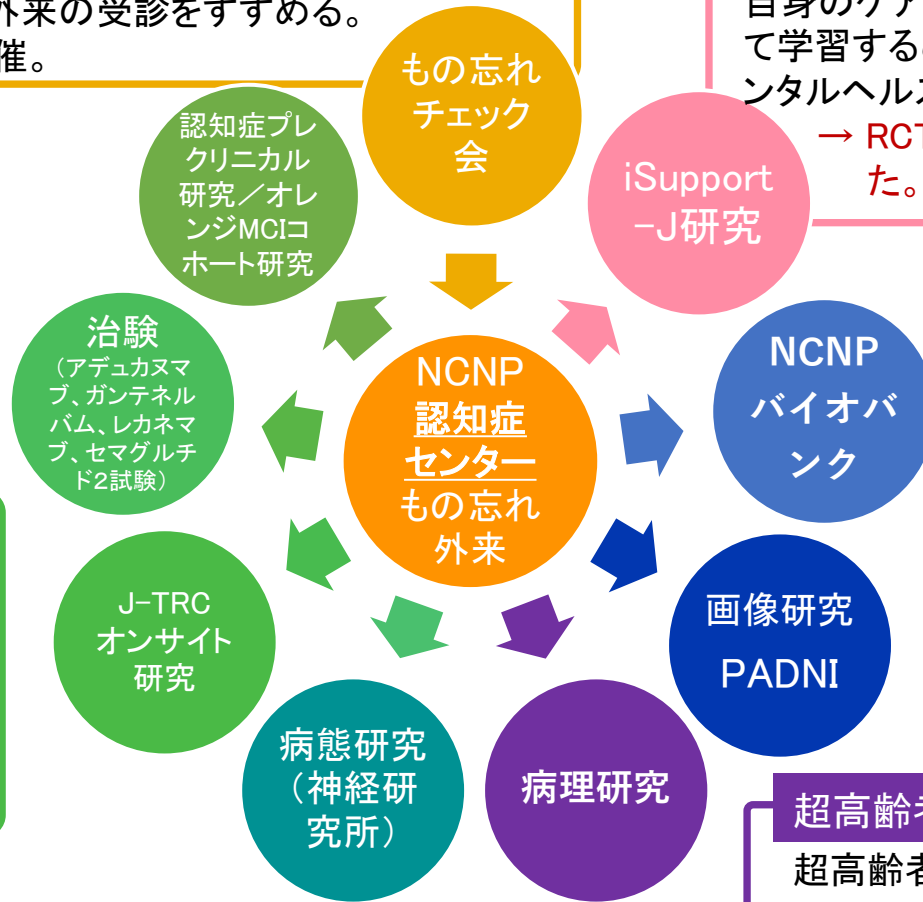
プレクリニカル・MCI期の縦断観察研究と治験的確被験者同定を目的としたコホートを構築。高リスク被験者には、認知機能検査、採血、アミロイドPET検査を実施し抗アミロイド薬を用いた介入治験に繋ぎ、アルツハイマー病の薬剤による予防の実現を図る。

神経変性疾患関連RNA・タンパク質の細胞内分解機構(株田)

細胞内核酸分解システムを発見した。疾患関連RNA分解の分子メカニズムを解明する。

神経変性疾患モデルマウスにおける環境要因の影響(皆川)

パーキンソン病の病態への睡眠異常の寄与について明らかにする。



レビー小体病における認知症発症リスクの同定に関する研究(齊藤)
レビー小体病をはじめとした神経変性認知症のバイオマーカーを見出す。

神経変性疾患における画像研究(佐藤)
どのMRI解析が分子イメージングの異常蛋白の蓄積を最も反映しているかを検討する。

超高齢者における脳病理(高尾)
超高齢者の脳病理変化を明らかにする。

異常タンパク質の生化学、構造解析(長谷川)
患者剖検脳に蓄積する異常型タンパク質の生化学、構造学的な解析を行う。